

体制構築への意見（宇宙開発戦略専門調査会提出資料）

平成 23 年 5 月 28 日作成

宇宙開発戦略専門調査会委員 向井 千秋

宇宙の開発・利用に関する政府の体制を考えるにあたり、考慮・検討すべき点について、意見を述べさせていただきます。

1. 宇宙の利用・開発は広範囲である：

宇宙技術の利用は、天気予報、通信、放送、カーナビ、災害モニター、地図作りなど、既に我々の暮らしから切り離すことができないほど深く社会のインフラに入り込んできています。従って、宇宙の利用や技術開発は、どこか1つの役所が集中して担当してしまえるほど狭い分野ではなく、今を持ってなお潜在的な広がりを秘めた分野です。これは国際的にも「宇宙開発が一国、一企業ではできない」と多くの人が認識していることにも通じることと思います

2. 内閣府が、各省をきちんと調整していくリーダーシップをとる必要がある：

国際競争力を持つためには、独自性や専門性が必要で、宇宙に関わる多くの役所が、実施機関として宇宙利用・開発にかかわるのは不可避なことです。宇宙村に閉じることなく、また、各省間の縦割りの弊害を最小限にするように政府の体制を構築する、つまり、各省を横系的にまとめる強力なリーダーシップを内閣府に期待します。

3. 内閣府の強力なリーダーシップのもとに国家戦略の明確化、宇宙政策の「見える化」、各省庁の役割分担の明確化を促進することが必要：

内閣府は司令塔となり、1 + 1 を 3 にするような調整をすることが必要です。各省が、何をどのくらい、どの辺まで、どういう予算でやっているのかという情報をまとめたマトリックスを作り、全体像を把握することで、効率化が図れると思います。また、政策部門（内閣府）と実施部門（各省庁）との間の適切な緊張関係を成立させる事も必要と思われます。

4. 実利用と将来計画（開発や研究）を見据えたバランスのとれた戦略が必要：

国際競争力のある利用を継続的に推進するためには、技術開発、R & D、人材育成が不可欠です。司令塔となる内閣府は長期展望に立ち、バランスのとれた政策を作成するべきと思います。

以上。